



門北  
號 275  
卷 5



筑前國續風土記卷之十一

嘉摩郡

北斗社

岩根寺

五百羅漢

桑野

長野村

小嶽

漆生村

大隈所

兼大明神社

庄内河内

馬見村馬見

河底邑

西村

麟翁寺

安國寺舊跡

山田河内

宇土浦山

上下邑

臼井村永泉寺

岩滝

立石邑

猪鼻

千手

牛隈

鯰田

八尋七兵衛  
藏書



和名抄に載る所を記す郡の名を云ふあり

草壁 三緒三村の多 大村 細川上

馬見多 碓井上

今称する所の此郡の村の名

龍田村 元吉村 有井村 大門村

仁保村 多田村 有安村 堀分村

赤坂村 山合村 入水村 高倉村

筒野村 下山村 上山村 熊畑村

宮吉村 上邑 大隈村 中益村

下中益村 下益村 大隈所 上下邑

貞月村 牛隈村 岩崎村 山野村

川島村

以上廿九ヶ村 福園

秋月 廿六ヶ村

素野中谷村 小野谷村 馬見村 原村

推本村 上西ヶ村 光代村 上白井村

平野村 平山村 女田邑 丸島系村

泉河内村 猪鹿村 栗野村 高畑村

湫畑村 櫻畑村 大力村 君畑村

東子子村 子子村 長野村 川底邑

坂田村

直方 廿十村

下白井村	深生村	鴨生村	上三緒村
下三緒村	立岩村	佐々村	口原村
鹿毛馬村	勢田村		

北斗社

下白井村ありけ村を大隈河の東にけ社と云ふ所の神  
 中殿は天御中主尊よりして左宮は伊弉諾尊伊弉册  
 尊と合せおろす是天の北辰と帝座とすろく擬すと  
 いろくまこと北斗と北辰と列し九月九日お祭あり例  
 大なる楠樹あり周十三尋其下の空虚ある所方宮  
 あり肉と骨は骨と云へ一篤信して法事と多く

経唐せしるもいづれかの大本と云ふ唐の文海披抄  
 と云書く建寧都司有五代時樟木六殿中可設敷  
 席とあり是この木と云く一かへし誠と帝有の本と  
 け村と云ふ里人災疫ありんとして必風をさす枝折る  
 いろくまのやれやと云傳へろく又けまを大隈村とも是  
 ころける大なる楠あり

大隈河

豊前猪熊と秋月の方東に西に海する宿願の田圃少  
 くありと云ふも氏定多く人数多しけ都くは唐を所と  
 祇園社も是産神と六月をありおろすり傳へ山にあり  
 大隈川はま下山野に流れろく出飯塚の下に流る

飯沼川と一ツよめる又大隈所の東に近くかくれ石とて巖あり  
ありさくもと一里前後方へゆく道に大隈所より其の境  
境自りて三里半猪俣へ二里半下る大隈村の村より  
大隈所の西向ひ西村よりと一里隈所より下る上下  
邑貞月村より其次を牛隈村より下流生より下岩河  
鴨生山野に大隈より下の流牙かくれと一

鱗龜寺 禪宗

下蓋村より大雄山と号し長政公家臣毛利細馬  
けまより二万石領しつらう率して後けりて其の但  
馬の追跡と鱗龜と云故にち号と云

岩根

中蓋村の山に傳いさき山を岩根と云り山流より水流  
せり斗あり其らの流をすま谷と云り十字横二十石程あり  
大岩に二石ありてつらとす岩多形深のあり向いと  
くす根のほと水流の流せりるのこも後よりすまわ  
時んくさうい流り前と流音堂を圍通ちとて小橋  
坊をけり

岩根寺

大隈村より此寺岩のりあるありと名をいふもその流音  
あり大隈所鱗龜寺にありて寺南に向ひてさき山  
より後山の岩を流音堂よりと橋より一里をくして  
俗名れ流のなり







書もなれいつの時々人のあせしとあやまきん

庄内河内

尚那のいそ東より赤坂穂坂の庄河内より河内と東と  
山と隔て一谷中よりあ方より小山と山と河内は浦水  
と長し東は赤坂田川部と小山と隔てく隔てり此河内  
凡十二村を河内より南と北とて依与え若大門有井  
仁保多田有安綱安山倉入水高倉赤坂筒野あり  
是北より南へ行くまき村のなせあり十二村の田畑す  
くくあふ余石あり谷水も一流あり山倉入水有村を  
庄内河内とて河内といふより小谷あり赤坂村の東れ山  
ありありあを赤坂のちと出る庄内の谷れか

筒野より隔りくは筒野の上と谷ありとくまきと  
越て平村より河内の河内あり庄内れも流ハ依り村が  
麻毛馬村勢田村とこ鞍も部沖津村の枝村吉野の  
上より大川と入る庄内の東とえゆる本山小多田山南  
を隔り山あり流り山をさく林本多し仁保村より  
東と越へてあふりなる大さく飯塚より赤坂田  
河部京田へ二里半余も仁保と京田の間かす五尾巖  
あり是飯塚赤坂のさうの仁保より赤坂隔りて  
廿六下二十万あり京田より赤坂あり

山田河内

平村より山田と山田河内と云中山田村あり是ハ山

田村の枝村あり中山田村の山の傍に坐せしむる  
ころあけさ大根を上山田のおく亦丁上と熊と知と云  
ふあり山向あり熊山とてむじ熊の位一山あり

猪鼻

下山田村の内之上山田と中山田の間に大隈より坐せしむ  
猪鼻とある大隈あり其方一東方と猪鼻と云はる  
是猪鼻とてその名ありや茶店を定之賣の初年  
より立り付け河平斗東と飛前坐す所の境あり塚あり  
是と西國の境城といふ大隈所よりけ茶屋へ二十所此  
茶屋より坐す猪鼻所へ三里あり

桑野

此郡の川と最南と坐す是桑野の原にけ村あり山の  
谷中より本谷村小野谷村とて坐村を立て桑野といふ  
本谷と云流く小野谷を枝流あり故に小野谷と對し  
本谷と云むじり小野谷は本谷の枝村ありし追代本村と  
むじり本谷れ上より谷と號へく上座郡小石原といふ  
坐す坐すと云産岩と云小野谷はけ谷口の西に傍しむる小  
谷と小野谷より本谷村へ坐里本谷より小石原へ二里あり  
本谷より大隈所へ坐里半あり本谷より大行事社より小野  
谷より坐すと動流すしむも坐村の産神に桑野村  
坐す前燒山の坐す物と産石とてあり大石小石とも居る  
小石付てつがのしむりしむり坐す也

馬見 馬見山

小野谷の西少くありて谷列の村の上へ馬見山あり  
この山は山彦天よりて竹本磐成より山より馬見山の  
神の社を白馬大明神といふいふ神と云ふこと事  
と云ふは大山をこい自より其神靈をとりてきりてん  
やけ神葦毛の馬と云ふこと事いふに里と飼うること  
あはれ地やうあること事也中よりせんわうの地には  
尚あり信濃の皇月移はふ馬山ふこと事亦あり馬見  
村より山の方山よりつらき村のふきハ屋村椎木上  
つら西の光代下田井あり

也中より山寺も是より依て村の号といふ事あり  
ありける山間よりて采之敷ける地こそ傳へる語あり  
里民ハ天智天皇の沖渡ありと云天智天皇ハ沖子と  
赤産郡と編りし事と其人 天皇崩しあは後こそと  
まあわたり物事とも枕字をてけ定りてんゆこと久  
しき物といふいふ人多く人ハ墓よりいふし又ふ事ありて  
宿野あり 長政公入國の後より一河にけりて河  
内ありふ山ハ白井村とて大隈川とてなるも長野河内  
ふよ是一河内之君細の川ハ惣領とてつ事野河内より  
出る川を則ち隈川とて是を川とて東山田河内の川と  
蒲生とて大隈川とてなるも河内の川ハ鞍子郡麻

毛馬野田の出来

長野村 河底村

いま村を子村の川上古河山の東山を下りて山を越え  
下りてその山をくぐり上り北常村村居あり古河山の近  
く昔は山をくぐりて山をくぐりて山をくぐりて山をくぐりて  
人ありてその山をくぐりて山をくぐりて山をくぐりて

上下村

壬午け村の多氏と次命と云者ありて幼わけて父と母  
母と若くして十歳なりて家極めて貧乏なりて母と若く  
へさいとて自ら見たりて自ら見たりて自ら見たりて  
母と自ら見たりて自ら見たりて自ら見たりて自ら見たりて

物と云言ふことやゆりて自ら見たりて自ら見たりて  
あつたに納めて後をいへりて母と若くして十歳なりて  
波屋に湯をいへりて自ら見たりて自ら見たりて自ら見たりて  
日暮まで待つ母食物とての波屋に湯をいへりて自ら見たりて  
時を食ふこととて母の湯に漬けて是を戴き洗ひつ  
やうにありて一日二日の母とつては事ありて自ら見たりて  
母老て病多く食すべからずおのまも憂へ思ひては  
ひらきつて食ふ時と白紙を指ひゆりて自ら見たりて  
其性直なりて盗むる人ありて自ら見たりて自ら見たりて  
かくもいへりて村人も感へりて自ら見たりて自ら見たりて  
母老て病多く食すべからずおのまも憂へ思ひては



い村と大河の東側とありて舟着あり運漕の便ありは  
長政の家の野村隼人の孫なり代々伝へり  
曹洞宗に禪あり弟松山と号は是と云ふ  
今も野村氏より寺を建てたり

湊生村

京祇振の白湊川と云ふ所なりと世俗にいふ  
左の川と今もあつて河の急流を湊川ありといふ  
とそとす

筑前國續風土記卷之十一終

筑前國續風土記卷之十一下

穂波郡

- |                        |     |      |     |
|------------------------|-----|------|-----|
| 大分八幡宮                  | 内住邑 | 八木山村 | 椿村  |
| 合屋                     | 目尾  | 明星寺  | 大日寺 |
| 飯塚                     | 天道町 | 高田村  | 土師村 |
| 種因寺 <small>十三塚</small> | 山伏塚 | 内野村  | 山口村 |
| 馬敷村                    |     |      |     |

合巻 目録

開巻

大分

大分八郡 内野郡 八木山郡 都計

大分八郡 内野郡

筑前國續風土記卷十一之下

穂波郡

此郡の名は、古くは國史に云へたる事、前記に記し、赤戸郡  
 と向し、け郡と赤戸とお無くつたり、赤戸と東南とあり  
 赤戸一河内とありて、口郡のこし、但南に方ハ赤戸ありて  
 少く考へて、赤戸穂波、東西とつて、赤戸ハ東とあり、西ハ  
 穂波あり、山深くして、薪伐ゆこく、川ありて、茨早の  
 一憂あり、土肥饒くして、種植の利あり、邑鄙にして、民俗  
 卑しく、言語は、こなり、と云ふも、いさく、穂波あり、赤戸  
 穂波、こを好郡と云ふ、

和名抄に載る、赤穂波郡、御の名五つあり

三坂 薦田 村の名より 土師 口上堅磐 口上穂波

今称す河のけ部 乃村名

合田村 建善寺村 蓮臺寺村 八木山村

行島村 庄司村 杉松村 飯塚村

津島村 枝園村 乐市村 明星寺村

美兼村 薦田村 南尾村 忠隈村

平恒村 太郎丸村 安恒村 椿村

辨分村 舍利寺村 大分村 内住村

掠本村 高田村 仲屋村 小左衛門村

久保田村 津系村 秀合村 土師村

平塚村 内野村 山口村 阿惠村

馬渡村 元吉村 吉隈村 土居村

豆田村 長尾村 九郎丸村

右四捨四村 福園領

秋月領

内山田村 赤山村

直方領

伊岐須村 横田村 川津村 目尾村

柙橋村 津島村 仲村 伊川村

花瀬村 大目寺村 小正村 関野村

河袋村





茂むら森れ木を古くして沖前と小なる川を  
潔く石の多井を寛永七年に長政公の家臣小河  
久をまつ家臣安部惣と清と云ふ者建立せりこころ  
年の冬村民何休云々云々又何と石の多井と建  
立す家の大分宮の二字ハ麓山院内府定談公の筆にて福  
元年鳥信都と云ふ一付と云ふ信て筆と添りたり  
即ち八月より放生会と概りいひ神輿と概りい  
後奉る八幡宮より南四丁よりと云ふ船の妻あり  
是神輿沖前ありいふ今にハ祭礼終り九  
月九日と流馬神樂ありと云ふ概りい  
とと云ふ今と其りいハ村民おつといひそれと評  
系社と概りいり此沖社の前大楠多しと云ふとい

大なる口より五圍あり昔に世より大なるつき鐘色と  
龍頭いふと云ふ今社のまゝあり社傳の坊と妙現  
山長樂ありと云ふ天台宗といひハ社傳の家も常へて大  
寺ありしと云ふ時の小寺れ名しと云ふ細乃字と云ふ  
八幡宮より七八丁東方田乃申と掃藏の路あり大  
なる礎石多し石を切て柱と居りありあり凡た  
村を所也く里座く居りあり静よりしてまけき  
物ありと云ふ境内ハ山のきくまのひ林の本をいふ面白  
ありと云ふ山谷の石又塘れといふく生茂りる松のうら  
まき松いふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
在務と云ふ事けりといふ他つと異ありと云ふ前より  
多し

アトニニキア

しつとあるものむ村と西より沖宮の並とさ花のり藤  
栗と出るもの多し是又大さなり

内住

け村と粉倉取とさなり藤栗より山より大なるる  
ちと精一列谷とさなりとさなり内住村の枝村たせと  
つふ河を花の谷より上とさなりとさなりとさなり  
又小滝二つとさ上と十あ畑とさなり民家も是又内  
住と属より十あ畑の上とさ山と口の平とさ十あ畑より  
粉倉取た谷とさなり大畑とさなりとさなり東の坂  
乳香板と云宇野村より東神切皇后宇美色より都  
へのむせむあ時 意神天皇は河を乳と香あひつと云

さ東と大野とさなり是又内住村と属せり民家も  
上とちより大野あり大野山とさなり 神切皇后は聖と  
さなりあひつ山の中とさなりとさなりとさなりとさなり  
あり大野とさなりとさなりとさなりとさなりとさなり  
花の谷とさなりとさなりとさなり又内住の月島尾の古城  
の東にあり仰海城と云四方あり方とさなりとさなり  
是ハ 神切皇后沖鷹とさなりとさなりとさなりとさなり  
村より大野村へゆくとさなりとさなりとさなりとさなり  
は谷のたちとさなりとさなり 凡け村境内とさなりとさなり  
松のくさきむん河多し

八木山

け里ハ山弓の幽谷とあり、鞍手郡大聖畑の谷とあり、  
さしより西とあり、粟井のさしより山伏谷れとあり、坂と  
ありては谷と入東と穂波のさしより石坂とあり、  
此村と入山のさし谷の田あり、里とあり、境地あり、  
人里をさし、冬と雪深く、まきとむら、夏と蚊あり、  
山とさし、雷れ、音再と迫く、さし、鳴る事あり、  
さし、老あゆ、橋柑の影、植とく、山、其のさし、後、植、唯  
梅、柿、梨、柑のさし、あり、さし、異里とあり、さし、大聖畑の  
下谷、さし、あり、さし、凡、里、幽谷とのさし、あり、大聖畑  
川の上あり、上、大聖畑、少石あり、地、さし、あり、け、里、と、藤、梨、の  
飯、塚、河、袋、へ、あり、大、さ、あり、上、村、下、村、あり、け、り、と、て、人、家

け、り、と、あり、又、け、村、と、龍、王、岳、と、あり、山、あり、け、山、と、登、り、と、  
高、戸、穂、波、と、郡、目、の、り、と、あり、ゆ、り、と、あり、天、狗、山、と、て  
さ、さ、山、の、か、り、と、あり、大、聖、畑、と、あり、又、け、村、の、境、内、に、山  
と、大、聖、畑、と、あり、さ、さ、の、滝、と、あり、け、り、と、あり、長、平、と、あり、  
大、石、あり、さ、り、さ、り、と、あり、水、流、と、あり、さ、り、と、あり、  
さ、り、と、あり、さ、り、と、あり、結、と、あり、け、り、と、あり、大、聖  
畑、と、あり、さ、り、と、あり、山、の、方、地、形、と、あり、八、本、と、あり、村、の、内、中、村  
と、あり、さ、り、と、あり、山、氏、の、墓、と、あり、老、松、の、社、乃、前、と、八  
本、山、氏、の、宅、跡、と、あり、さ、り、と、あり、け、村、と、あり、飯、を、し、人、と、あり、  
上、村、の、竹、林、に、あり、大、松、あり、さ、り、の、周、り、之、圍、ま、り、  
り、病、贅、ま、り、校、堂、と、あり、さ、り、と、あり、大、聖、畑、と、あり、

石坂ハ八木山村の東あり口郡の法村ハ石坂より下  
ありけ坂乃より東レることのそりハ豊前河内郡  
赤戸極波の東方レ法村眼より多ては京にけ不乃  
法より六山上にありさけし多て人馬れつらひ多う  
しと長政公入國の後如水公是とらまひあひなく  
たより帰留もて今れさと切実さあふ減しそり  
序しとまへし如水公帰留は時茶亭と接して休息  
し多りあり今程相平沙より茶屋のありし乃  
村民ハ永代土貢とゆりさる

椿村

八幡の宮あり御中十村の惣社ニ社ハ村中の山高き

いりありて南に向へり九月十五日とあるなり世社あり  
其枝多あり海石榴樹ありあり村の名も人亦村を  
いりへ宇佐の神ありありあり宇佐八幡宮と勧修寺  
一城へし村れ入りし本像は新あり村民ハ安藤太史  
安藤助史婦の像ありといふ是よりへ八幡宮の社  
穢ありといふあり其前ハ八幡の沖も洗池あり

合屋

此郡は内庄内中邑津嶋柳橋の四村二谷口流の内  
は邑於て合屋といふ高取の庵志新の郡の内  
にて後て後寛永七年にありあり中村の内白鷺山  
水乃林ありあり三十二三年廿地にてやく白鷺山

及庄内乃光山の本と切さう白龍山と檜樹多し  
白龍山西へ合田村と属し中村の仲村と属す  
寶光山と云ふ村ありて庄内村に属せり  
中村に内鼓  
赤檜現の苗字現の社あり山と云ふにあり是合  
庄の四村及河袋村乃惣社之庄内村の鯨川淵の神  
社と云ふ金五ヶ村惣社れり宮之佐伯氏世々其宮と  
司之河袋と合金の谷とありて是地あり  
古来の云傳あり神即皇后三韓と成りし時  
志賀の傍よりして神樂と奏せりし一対苗鶴と司  
りし神ありと云ふ一庄司村と云ふ光山と云ふ本山と  
其地多し凡八万坪と云ふ此河之寶光山と云ふ正  
居を云ふ所ののち地あり

目尾 ミヤカノヲ

目の字在國より守助丞目れ官人を目と云ふ文  
策の事と司り官と云やうと云ふと云ふと云ふと云ふ村  
と目尾と云ふ一事ハ一は目れ官ありし人け何  
居住を云ふ也

明星寺

明星寺村あり平香山妙覺院と号し天台宗あり  
開基の時代不明なり此處にありて虚空蔵  
と云ふと云ふ此寺中法影法師して修理する人あり  
聖光上人 無名と号し飛鳥人あり  
唐仁元年の初年 是と歎きて再興  
と志し大日寺山と云く柱と切さう終る三層の塔と



邑中へ金剛禪寺の回廊あり昔は寺ありしといふ  
今とてはあはれなるとして遊する觀音堂あり又村の名を大  
日寺と云ふ昔大日と云ふ寺ありといふかといふありし  
凡て<sup>此</sup>寺号と村の名とするはあはれなると明皇の建  
てる蓮花の太りる舎に在る之明皇の之を終る所  
りて之を北四箇と云ふ其高路よりこころありし物毎  
古きハハとて新しきハハ堂へ在る愛蓮して昔ありぬ  
らふき世なりといひあり

今録西村

飯塚村

上方より西南に流る宿禰より國中の郷里にて氏家  
多き事極は甘ふといふもり世盡る川の上ありといふ

川舟多し運漕の便にして海味乏しなり富人も亦  
頗る之後之を河といひ川は太隈川よりあり其原は内  
野山台太方の谷より出たり飯塚といふこころあり  
片崎とて太隈川といふありけしと飯塚といふ所ハ高昔  
明皇の造営事始り開堂供養の時飯といふ多し炊  
けりといふあり多ししてせしめ塚のこころ轉るる飯塚  
といふ今其塚跡にて國君乃飯乃内居母の前より  
けりといふ此邑内にて先年飯の石ありといふと塚あり  
事ありといふや又け村は太隈院といふ寺ありといふ傳の  
言傳つるハ明皇の此邑の村食物と個へといふて  
寺ありといふ太隈院といふ山号とて念運山といふ食物と



等と入と持あしゆに此を始と飯塚の側と云 國君  
乃り飯と比しきし時との地と後より寺産十名あり

天道所

太郎丸村の内之 天道宮ありい社と建し初は寛永  
七八年の比もや右左丸村と松永孫四郎入を西齋と云  
とのあり 神託と得てよく吉と云ふも氏信仰  
して社と立これ天より告と思ひしや且社と天道  
宮と号しし系流するとのあり 於て民屋多く西本巷  
とありて天道所と云宛も右流のこしけはより飯塚へ  
一里内野へ二里七丁も長済海をこし 天道宮社建て  
後十四五年も右系流より右甚多し 其後漸く衰

へり今高其社もて村民是と云ふ又け飯河村  
と河津沓堂あり寛永十四年の比より廿佛具始  
多とて系流する者りこし難果して寒穢と多く  
かけりる右十四五年もしつ流の漸くおろへぬ

高田村

け村田の中し甲塚とて云ういふ塚もや詳もは昔  
に數甲ありといふも逐年崩しつるもや今も二十  
余段あり又一日塚とて云う二十余段ありサキ右の  
大塚ありしむし留人もて一りし築をいふ塚といふもつ  
せしより成るす

種因寺 兼十三塚

土師村と云ふ在り茶師佛之是七佛茶師の二つにて  
傳教大師の化之物と云ふ佛者年号として今もあ  
る焦唐と云ふとして在りてはしりしりしり寺の地多  
つきて寺も業へ作りたりと云ふ茶師堂の事と云ふ  
又け村の高きと云ふ十二ヶ塚あり今も在り

山伏塚

庄司村とあり其の傍横一町許ありしり彦山の山伏塚  
大宮司へ祈禱の事と云ふはしりしりしりしりしりしり  
と云ふの境これ谷と云ふはしりしりしりしりしりしり  
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

内野村

山谷のりしりあり村として飯塚より山家と云ふはしりしり  
氏屋多し是より西山と云ふはしりしりしりしりしりしり  
と云ふはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
長政公と云ふ家信毛利但馬としてけ地と云ふはしりしり  
所と云ふはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
二里廿一丁河内郡と云ふはしりしりしりしりしりしりしり  
根子岳と云ふはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
権現と云ふはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
瓶のつらう一人守あり内野の谷の上と云ふはしりしり  
山平と云ふはしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
内野より河内郡山家と云ふはしりしりしりしりしりしり



筑前國延風志記卷十二

鞍手郡

天照宮

普光玉寺

直方

雲心寺

山邊知古

頤野

福智山

勝野

奈良津

木屋瀨

植木

真如寺

永満寺

琢磨

御徳村

赤地村

吉野村

境圃

尺ノ嶽

金剛村

- |      |      |       |      |
|------|------|-------|------|
| 兼樂寺  | 宮田   | 極樂寺   | 若宮河内 |
| 若宮八幡 | 吉川河内 | 山王権現社 | 瑞石寺  |
| 湯原   | 清水寺  | 山村圓通寺 | 長谷寺  |
| 麻毛馬村 | 最明寺趾 | 笠松    | 太閤道  |
| 内山村  | 緑山   | 大啼山   | 大賀畑  |
| 蛤殻圃  |      |       |      |

筑前國續風土記卷之十二

鞆子郡

此郡東に峯前と云ふ山南に赤戸極波と向ひ山と  
 幸賢郡に流るる河ハ山と流れて宗像郡と流る  
 山より大河流きて山川の利あり其土地肥饒と  
 して五穀ゆとくと本草蕃茂し薪材之り其國  
 中より上府郡と流れて上郡と云ふ一多字吉川  
 の河内を類希なる佳地あり  
聖徳太子の侍り守屋三男  
 片野田連四男辰瓜連ホ  
 と筑前國 和名抄と載る所の御の名ありあり  
 金生 とむ村の名 二田 生見 十市 新分  
 とむ村の名 粥田 粥田の名  
 村あり

今村の河の口所の村の名

江口村

山形村

長井落村

湯系村

狼甲村

楢光村

平村

高野村

金生村

倉久村

四節丸村

芥田村

重丸村

竹系村

黒丸村

下村

乙野村

緑山田村

新庭村

植本村

本屋敷村

感田村

下新入村

中山村

吉門村

上本月村

下本月村

下大隈村

小牧村

上有本村

下有本村

宮永村

水原村

小伏村

直方領三十村

坂野村

畑村

永満寺村

下境村

赤地村

沖徳村

勢田村

麻毛馬村

口系村

野面村

金剛村

茶田村

龍津村

鶴田村

奈良村

新山崎村



圃輝光の村降りありてをさうしりて互に耕地の  
便よりりて近年農民も各お習て此地と  
耕地より故に天照宮の事傳へる昔のまふか  
まこと今も輝光村の境内とあり霧田村も元來  
天照宮の發地也霧田といふ田の平の白霧田といふ凡は  
神神ハ上代より霧田申く住者も神宮化りと  
いふく神儀多しして年申れ祭祀を教解せし  
祠官もあつてもとせと勅りけりともや按る  
三代之書録に陽成天皇元慶元年十二月十日飛  
前國正六位上天照神と從五位下と授ふあり  
けり神の事ありしに徳治三年造宮より棟札を

延宝三年庚申之發地の人にお儀とてなりて新  
神殿と改め作す元禄六年直方れ家臣小川氏石  
の多井と建立す粥田庄の惣社として輝光鶴  
田龍池宮田大隈尾崎兵部等天照宮の發地也  
先年直方れ領主黒田長清君の命と受て篤信  
縁起と化して御奉ると云今も霧田二村とあり  
普光寺  
輝光村口陽山の上あり村よりなる事三河河  
ありしより大寺とて七堂ありてありといふと唯  
昆沙門堂のそとあり山より山池も是といふは池  
より昔よりありて是も乾すといふ





地と改め妙見山と新定と云前と堀とあり土塔と  
築くかてり妙見の社と山の山と接する元禄年  
申社人喜山祝部、乾くより一山に神名よりして  
多賀大明神と改むと額も油小路大納言隆貞の  
筆なり

雲心寺 祥宗濟家

横峯山と号八山色村の境内に開山ハ大徳寺の江  
月和尚よりして常福寺の末より寛永年中より之  
東市山隆政 長政公の四男寛永十二年十一月十日卒法名宗下 後市山之勝 忠之  
二男寛永七年卒 此墓石位牌より寺屋に字石之勝  
より寺附あり

山辺知古

この支村むら新入の枝村ありしと寛永十六年始  
久利村とあり

野野

大色あり村中と川ありと云云と山ありて境内  
高野あり村あり

福智山

又福智岳と云ふ山あり東方の東にあり山のいり谷と云ふ  
此野村ありけ山の峯と云ふ所龍帝の境といふ  
山を直方れ東と向ふと云ふ山は福智山ハ云ふ東山の東  
と云て谷と云ふと云ふ山よりハ高より高  
ひり福智の頂と社と福智権現と号ハ彦山同

彦山同

神ありと云此やうら共る前流布する必の境と云これハ  
乾の方向柱檜多とハ流布する所せりゆへと兩國より  
そしひをまする神也物々言ふ山の上と云て老幼の  
系流るやとあり物々此礼の便也と云れハ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

奈良津

けしう昔々大川のほとと土境流るあり延宝四年洪  
水のうもこの流れて今の河と云つ所

本屋敷

じう勝光上人植波助の星る再興の付巻後田村  
家より校本と寄附しつらと云つとありや川より起せ  
けしの川をこの本屋敷とけく入垂しそ河と本屋敷と  
よみ今ハ他國の政の名譯も如く氏家多し

植木

東の方馬濟本屋敷と云く云くまより西方への海り  
宿と云より赤石より氏家多し所のうしろある河と

倡優の位所も家敷三十軒ありあり是も也上人と  
祀しし者九品念佛とのに修りあり村中の田は家も九品  
田と云ふは是れ九品  
念佛の料田 者傀儡と云くは業と云は博多聖福寺  
の寺中と志す歌の御村大日を聖歌と云ふ念佛の  
歌又町の南に大池あり南に小丁東に早干洋あり  
水多し國中そ凡二三の大塘あり下の田地と云は  
け池と蓮葉多し

真如寺 浄土宗鎮西派

高尾山と号し植木所あり 長政の村より寺に  
十石ありあり

劔岳 けし山鶴の歌の中央ありあり  
中山の山あり

中山村あり村より七丁あり坂と云ふ山に劔大御神の  
社ありと劔岳と云社を築きしむり凡いそと劔大  
御神と云ふ社八所あり中山村新入龍池新水新池  
下本月寺聖の布陣村あり

△ 永満寺 天台宗

大興山往生院と号し後改て双林院と云い寺ありと  
村の名も永満と号しえと上場村と云せり 宗基  
の時代詳あり比叡山の末とて齋を山の麓とあり  
天文八年大内家より九所七段のち飯と号附せしれ  
寄進状も凡此村山中閑寂れ地として世俗の産埃と  
離るけちと号す方(後)此方の定むま田之勝

木月寺に在り

ちぬ十石寄附一むら

琢磨

永澤子の枝村と琢磨と云はる琢磨山西福子と云  
曹洞宗れちるより是豊前国田河郡興國寺にありと  
山井とありていと田寂ちるち後あり

赤地村

元和三年より同四年とありて云々赤地村なり

赤地村

赤地村の東北川ハ豊前田河郡より出づ境上境と申  
多村とありと流しと申方北西の東とて赤川と一ツと  
成る赤川より水取くかへされも赤川といふまじく

の太川あり舟も登る赤地村を赤川のりあり

吉野

村翁の説にむし大和國吉野より吉野とありといふ人  
ありて居住より赤川の名に吉野より南朝まで紀  
後代菊池氏南朝之属一の國の内にて赤地へいふ吉  
野より南朝の人ありてあり住みかへて固て吉野藏  
王権現と勤清す其時社よりいふ今権現山と云  
そ後彼山といふより人の城と第一の社王権現と今の  
河と接し又いふと吉野山と名づく昔の社王権現あり  
社あり吉野山とありていふとの吉野山の下人家れと云  
吉野村と云とハ赤地村の枝村と云王権現と妙なりとも

一社と云ふ事あり

境圃

上境下境村とありい圃をくわく祀鏡の地之信也部井  
系村の境圃と名と等あり何七國中無類の良地之  
此何と云ふと多々他の上境より下境の圃を唐一  
田川乃のいりてあり

尺乃山嶽

此聖村のありてありさ山と此山の少く群嶽あり

金剛村

い村のいりて群嶽と云高山を藤田金剛の上あり前  
と括あつる山之其より群嶽控現の社ありいりる神と

系ありいりて村老の傳あり一別の谷といふ所も昔は  
此より金剛寺と云ちる一あり村の名とも金剛といふ  
けちいりハ松葉のいりていりていりていりていりて  
唐造入とち申と侵しすむ寺と多く在り四尺大の赤  
つと迹ありとて追討してはいりていりて墓をも是に依  
りて其地と云ふ系といふ谷に尼寺に治及墓所も  
い村及茶田村中よりハ馬月村と属して寺を聖徳あり  
近きいりり鞠子郡と属して馬月村板村とハ板世に  
土地勢と云ふと鞠子郡と入一車とて蓋いりハ鞠  
子の属すとて中改改世乃何ありて馬月と属せし  
たりと云ふ

兼樂寺

福壽山と号し茶田村あり在る茶師佛ハ行基の化  
とす河内院四天王十二神等もろり村民の言傳ハ  
越前國峯茶師山城小茶谷の茶師ハ茶師と名  
とて之傳もろり一木とて行基割りとも云

宮田

宮田龍徳新入の三村とある宮田の入口と新入と下口  
とす宮田と上口と龍徳と中とろり三村ともろり  
あ山乃ろろあり龍村と若宮吉河大賀畑の川宮田乃  
上とて一と宮田龍徳新入の山乃とろり本宮徳と  
ろり大川とろりつとある宮田とハ水師と名川乃とろり

けまの農と茶と宮田と出し舟とつと甚る久くは  
と年ハち堰と出来て宮田と舟と下は宮田村乃  
境内と大なる石窟あり南と向り宮田より西とろり  
その内唐とハ宮田許り入口せり内と石佛十六羅  
漢と今ハ十三四と目鼻の形ととハキリつと下は  
宮田より長井野のこつと野許り乃の十乃許右の方  
ろり河とろり何れ造とせりや知とせん

極樂寺

光明山と号し宮田村とろり智恩院の末とて用基  
の時代詳とろり古き寺とろり長長十六年 長政公  
或百とれと名と附とろり後ろりて後ろり宮田

隆政其母公大徳院長政公の夫人のこりて仮成墓所と云ふ  
位牌と安置して毎月お祀りあり葬りし地と云ふ  
是より又五十石の地とあり附しあり

若宮河内

倉久野丸上より下り本野田京田金丸水原作丸  
高野平村黒丸金生福丸岩野伊賀村け三村ハ高野村  
村の枝村あり  
西田高野村の  
枝村あり多治福光村の  
枝村あり古川日土以上十九村是と云  
若宮河内といひ河内ハ山中よりして鞍馬郡の最上奥通ニ  
山あり川流してなまほ境ニ至境内水原村と若宮  
八幡宮御寺にて御中の惣社といふと云ふ云と稱は  
三川ハ山丘村より流れて沼津村と流れて金丸のりて

吉河川といふつとわかれ

若宮八幡

水原村よりして是仁徳天皇と云ふる社也 仁徳帝ハ  
八幡の沖子なりゆへ若宮と稱す一説ハ村翁の言傳ハ  
元久れころ金子小次郎と云へく悪源太義平と神と祝  
ひありて八幡と云ふ事ハ信すへうと云ふ中ころ  
内倉美濃と云ひく人神殿と再興あり寛永年中ニ  
村氏ニ頼徳と云ふきて修造せりけ社を若宮河内の  
惣社也若宮河内とい社  
もあつてあると云むじハ社数多く附しりし今ハ之  
一と云ふも数村の産神あり人々を産すといふ社  
と修造すといふと破壊のうまは水原村むじハ



今乃八幡宮のま田に中より寛文十年今の地

吉川河内

下村湯系服田乙野小伏縁山凡六村是と吉川河内と云  
昔ハ五村之を手縁山出外て加ふる吉川河内と東西並  
へり吉川ハ東より西を流る其間ハ金糸といふ  
長き糸と流る吉川河を流ハ大鳴より出服田小伏  
湯系といふ金丸下とて吉川といふなり

山王権現社

吉川下村あり吉川河内五村に惣社也いつの以勅傳きしや  
年ハ詳多し凡ハ其地と云ふ處崎と云ふ江別乃  
山王の地といふも其名之應安元年建立此棟あり

文明九年大内家の臣宗像掃部允盛秀といふ者  
修慶と加ふる後教破りて大永七年大村又四郎眞  
系といふの建立より又天正十二年松井越後守秀淵と  
云ふの建立せり寛文十一年吉川河の産子といふつ  
とハ今此宮に新し神宮と建立して後一奉る  
社地といふと云ふ石階と云ふ上ハ眺望眼とい  
ふこがめ下ハ水流と云ふ

瑞石寺 曹洞宗

丹鳳山といふは楠谷といふところ重生村と云ふは桑田村  
より一里許あり門前ハ民家少ありと云ふも里と云ふ  
山谷ハ其地といふところては物と云ふは此地ハ樹下



く尺(後)り佳素之此山の上(中村に)を籠と網とて取らばあり

山止村園通院 曹洞宗

聖音山と号し山止村の月うま本細とあり天文二十  
十年大内義隆之権臣陶屋張ち晴賢入道全姜の  
しあつて弑せらるる時宗像大富司氏男ハ坊刻之性も義  
隆の爲之忠義せしるるも叶はぬ義隆のあつてとて  
切し之歌ありしより來り氷上といふ河をて討死せり陶全  
姜の姪の産し山止の子四郎氏貞と陶くくゆひし  
大富司の家と強ししとて天文二十年九月十二日宗像  
と下山宗像の家へ曰はるる者ありし氏男ハ亦女代松  
尚年十三歳ありしと宗像の家は号氏男ハ後室の

若きし一氏男ハ迄と進とんと此を父前大富司  
氏續と是と收んで之儀と云んと此陶全姜是  
と云ていそき先氏續と女代松と殺すしと氏直  
の家人と内治部と元と命して言きり氏續是と  
すて彦山といわれしと甥土橋氏康多勢と以て  
攻殺んしと取れしと密に殺すしとて是と云んて  
けしつ終るる海人と殺すし女代松。女々氏續の妻  
ありしと名と無といふ女代松と抱きて鞍の部は口  
かき居らるる討死しありしと云んて彦山の殺と  
山口村と進よ女代松と海人の妻と一殺ししとて  
抱きてるるありしと母子供と殺ししとて尸と云

其口は山止村園通院

一、蘇子子代松の墓い何とあり後、山田の後室の怨  
具崇りつとやうんをり氏貞れ内室の命そく氏松の  
霊より神といふ今宮殿と号てをい表れ中と社  
あり又山田村の寺と建氏續子代松父子の菩提成  
帯ふ寺と高通院と号れ今も子代松の位牌は  
寺あり

長谷寺

浄土宗臨西派

新山村の枝村長谷といふ所あり  
本村の  
は里を 亀甲山  
といふに寺あり十一面観音行基の化と言傳へり  
往昔大和國長谷乃美賀坊といふ傍此地ありて  
ちと建とて寺あり其形勢大和の長谷と換とて云

或後、聖武帝大和の長谷寺と云ふのて後述  
上人の詔一國に新長谷と云ふるをい寺もその時  
之よりやい寺といふ本捨として本一布として未成なる  
ありたりけるむい、解り業れ何とて五百石のち銀あり  
傍坊も六區ありといふ今もあつてその跡も六坊あり  
谷  
橋瓜坊池田坊伊勢坊  
水坊尾基坊あり 盗賊のいあり焼くもて今も寺  
一坊あり十一月にありありい寺といふあり古き  
大鼓ありいりへ解り業れ何とてのりあり

麻毛馬村

小堤山古宮山といふ一馬牧あり何あり四方より  
と築き廻りありあり二十丁許あり此牧より麻毛の

良馬あり事ありて村の名とて一也又け村の内  
大谷山の麓を前境と日王殿と云て人許の名拂と  
て例と寺ありはとらん礎跡あり池ありといふ  
寺ありといふ也

最明寺址

四高丸村の枝村とてうじりい最明寺と云寺ありと云  
今いたる某寺のこ所あり最明寺時頼也國時  
けりて宿りてしとてう最明寺と号ありといふ

三松

四高丸村の田乃字の三松といふ所あり昔より大なる松あり  
ありといふ今も三松といふ村人の言はるるに神田皇后

異國退治の前とけはと通てとていひ河内と越後  
ひりく三松と号ありといふ

太閤道

四高丸村倉久村れ境ありと大岡と云秀吉云  
朝鮮征伐れとて肥前名護屋より下りていひ河内  
よりいへけありいひれを物々其屋より越後  
右つへいまより南の谷と越へて四高丸倉久より  
四高丸れ枝村渡瀬をいへて又西の方れとていひ  
より下りて赤石の浮乃東へつとていひ赤石をいへ  
いひ河内道と今右の榎より赤石へ西り谷合の  
を長坂云ふの後に造りて新道なり

内山寺

靈松山と号し念久村の昔も大寺として名譽山叡  
光院の東よりしと云今ハ佛堂の礎も倒り山叡住  
して香花と供ふ本寺ハ不動明王ありしハ天正のころハ  
野火して炎ととなり慶長三年の冬ハ京乃佛師松月と  
して新の不動像と彫刻せりて安置せしと遊人  
取つて今ハ其像未だ仲山寺移破せしハ彼寺の  
在る不動毘沙門 其前國京都等覺寺  
之照法師の地あり 觀音と云く  
之ハ安曇氏むすハハ坊仲山寺東蓮寺ありしハ  
山を云ふ未だ今ハ皆廢絶せりち申之儀ハ  
是ハハ河の流及河嗣水に用ひしといふ

山王権現宝満明神ありといふも社今ハ之ハ大門を  
云四跡あり又内山と云ふ所の田れ中ハ森あり里民ハ  
行基ハ母乃墓ありといふ

緑山

此村慶長年中ハ農民三人ありて今ハ十  
戸あり山高く谷深くして冬ハ雪ふりて甚きハ  
と云て産と云ふ村ハ吉川ハ属ハ云々も云来土地  
乃神ありて吉川の山王と云ふハ緑田より緑山ハ上を  
横嶺といふ緑山乃上東ハ山頂菅嶽といふ

大啼山

緑田村の内ハ緑田村より川に流れて定るハ石多くして

路あやうしい山とまへく大の平とふ高しと昔は美  
枝多し麻の如く立て白昼とてし言うし今も我  
木あやうしい地と昔年産とや紙とす死産と化  
る舟の櫓棹とていふう出ん今の成とすさ産と焼  
は大河内とて是も産とすより谷と池ひ山と越へて  
粕産の伊勢への一里廿六丁と若野へも一里六丁と  
及り大啼とて谷の今紙産の産るはより四丁東  
宅といたの方より水の多く流るる谷あり是も其  
産とて一より産の久系村へ紙今紙すもは本  
谷と大河内とて大啼とて言物とてもを年はいま  
すて大啼山と称ん大河内の一谷内た者もへく

九谷と大河内の外と此山中と産産多し

大賢畑

下と産系より上と菅栢畑の上八木の境といふ  
山遊谷の内四里許とて名は山村多しすて大賢畑  
とて其川下より谷と入くより次丹と産系より系カ丸  
小川菅栢畑と産と谷と産と産とあり村月の  
上あり河の谷といふ一産系より系宮田村の村と  
カ丸小川と下村乃村と下村の山と越へて産と谷川  
河といふ産多し一産系より上ゆすの本より長淵産  
淵十人産と産と産と産と産と産と産と産と産と  
淵十人産と産と一其川上と産と産と産と産と

高田村と出て、若菜吉川の川と一ツとある大聖畑の上五  
帝谷と云ふ所の奥に谷とて池の河内とて産を治山と  
谷と多し昔は村本多く産する今も村本少く深山  
幽谷之八本山の北より

蛤殻圃

下本月村の枝村と蛤殻圃と云ふを其他の圃に中一  
作と地の産と地とハ蛤殻多くある所と云はれ名と上  
とを多く取ると云ふハ少ハあるも其氏と云ふと  
焼て蛤殻と云ふ白土と用ゆ又此郡古門村の枝村道中と  
云ふ所も蛤殻池とてあり小山のちある浅き沼に蛤殻多  
し昔は郡桶村の境内とて蛤殻圃と云ふ所の其他も

多し山城国綴喜郡田原郡の内湯谷村と云ふの谷  
と云ふ所と古く蛤多し是海をさへ十三里ある所と



筑前國續風土記卷之十三

遠賀郡

園湊

芦屋

高倉社下宮  
垂間野橋

遠賀川

高倉村

高倉社  
龍昌寺

垂水越

内浦

海藏寺

吉木村

隆守院

園松原

天野村

下山

初浦

馬牧大藏神社  
熊手村

矢矧川

道場原

垣生村

羅漢

廣渡

木守村

館屋敷村

二村

小舖太閤水

今古賀

長壽

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

遠賀堀川

般若瀨

香月

松守大明神  
勝福寺吉祥

中河内

田代

引野村

旗指社

弘善寺

熊手

穴生

陣原

新田

吉木

内瀬

吉木林

吉木林

園奈

吉野

吉野

高倉林

遠賀郡

遠賀國志

筑前國續風土記卷之十二

遠賀郡

日本記云 仲哀天皇の八年春正月己卯朔壬午筑  
 前出幸一幸之時園縣主の祖慈鯨と云く人 天皇の  
 筑前より幸一幸の時と云て周芳の所歴の浦と云く  
 遠へありし事あり 園縣とい別此を加多郡の事あり  
 事を記すとい園れ字と云名く 倭字あり書くあり仙覚  
 う著紫波とい筑前風土記を以て鴉舸縣といたり内  
 浦の西京村より昔を金すての海ありと云き園つを  
 り所くそをそと園と稱し郡名も是くよりて名付  
 しとん又むいとい郡河く馬牧多くして戸畑村

丹熊村は浦をめぐりて牧を一里あり程は外にも多し  
一と名あり中流よりは郡と沖牧郡と稱する俗第  
里の梅菴集の宗悦丈人を能之前引沖牧香月御  
共粉里と書り又天文年中大内義隆大府宣も  
能前沖牧郡と云り又天文四年に國郡の名はも  
如く復すといふ事あり 台命あり是よりして古き名  
ありて是を多郡とありては郡少く海あり東に豊前  
企救郡と隣りて大山と隔て西に宗像郡と對して  
山と境をくし南に鶴ヶ島郡と平地つまきり山をく地  
平より田地多くして境内唐一土肥て穀ゆこ  
大河あり海をくして運漕の便よく海味も乏し

河奥より國中より一の大郡の物産も亦多く新  
杖之邊地取しきく水派よりく大河流して水災  
多し所より早業と他郡より産饒多しと兩年に  
凶饑と多し

和名抄より出づる所の御名を云ふ

垣生 とむ村の 垣前 今も吉本村より芋屋の邊まで 神印皇  
中よりすりの河をさして程と程と 山鹿 とも村の名 宗像 内浦 とも村の名 本夜

今称する所の村の名

- 上底丹野村 中底丹野村 下底丹野村 又朝本 立屋敷村
- 糖塚村 今古賀村 伊佐座村 野間村

仲岡村	古賀村	八村	比赤村
上二村	下二村	本守村	城畑村
小鳥掛村	島津村	海老津村	虫生津村
戸切村	原村	廣渡村	垣生村
別府村	猪熊村	屋寄村	岩瀬村
山田村	吉田村	楠橋村	小山嶺村
上上津没村	畑村	鬼津村	若松村 <small>郡中車馬 二箇を以て西</small>
高倉村	内浦村	天野村	波津浦村
松原村	黒山村	三吉村	芦屋村
穴生村 <small>津原 枝村</small>	熊手村	藤田村	鳴水村
前田村	尾倉村	枝光村	大藏村

戸畑村 中原村

島郷二十一村

若松村	修多羅村	若木村	二島山村
島田村	杉田村	竹並村	海士住村
青毛村	大鳥居村	乙丸村	高洲村
山麻村			

右の十三村と山麻より南に方内海の邊あり  
 東より西へ乃次あり

柏原	岩屋	安屋	照田
小嶽	照浦	小石村	

右の七村山麻の北方より西より東へ乃次あり

直方領十二村

香月	馬場山村	下上津波村	永太丸村
市ノ瀬	川野	則松村	折尾村
布城村	塩屋村	小貴村	浅川村

園溪

芦屋の邊より或は園の畔園に浦とも稱す仙芝の  
 著る抄に名れ水つに流るる風を記す云瑠  
 河線に東の側とをいふ云云に記あり名けて瑠河水門  
 と云大船と寄するに據るるに云云に記あり 神武天  
 皇日向國より東征しつに流るるの記あり

ありまやと云はる物に人皇れり云云に記あり  
 名にりり云云に記あり云云に記あり或人の曰内浦と  
 吉本村の記あり入海して是と記され流るる云云に記あり  
 非之を記し仙芝の川なる風を記の記ありて云云に記あり  
 事疑ひあり況やまやと云はる里民もむいふに記あり  
 流と云はるるに記あり流るる記あり水堂の記あり  
 あり水堂と云はる水の入り記あり云云に記あり  
 祇に指す記あり水堂に園のやと記あり云云に記あり  
 云云に記あり流るるに記あり水堂と云はるるに記あり  
 園と名付るに内浦の記ありありと記あり云云に記あり  
 云云に記あり云云に記あり云云に記あり云云に記あり





つれぬのありやとわいさうりてこはる屋もわらうりる日

無題詩集藤原周允宿芦屋駅詩有

眇邈水行心苦念昨留今駐罵春風渡林鶯啁  
殘花底阿岫鷗眠落日中往事難忘雙袖淚浮  
生弥論一舟夢自憐自咲深毫記斯泊三為注夏  
躬

又

涉嶮乘危歸思念前程早晚達華風雲帆忽落  
嵐狂後水梗遠漂波激中江縣縁邊同首見家江  
案内入霄夢數廻經過人知否西海屢為遊蕩躬  
又無影詩集一釋蓮禪著葦屋津有感と

云影とて化さる詩

沙月渚風秋浩々自然遊子感吞胸向津上下客  
舟集分岸東南民戸重夾岸二庄  
土民比屋言土俗每朝先賣  
菜黃瓜紫茄土  
民賣之故云釣漁終夜幾燒松渾舟篝火終  
夜燒松也不圖  
再到過斯地思舊欄干淚忽降注軍隨養親路次  
此泊今又來故云

京祇法沙此河そよま

志行也あありやの路を衣さる月やあつた心いそりかん

又あれ人うりて

いつきうあありやの月江夕一とま

このあれ東側と一村あり民屋數十戸を是と寺中町と  
よ聖福とれ側と居る地優とい勢あるゆへち中と橋は







河原より百廿七間余ありあり橋を長くしと云はく  
うり橋のよと大船通りしといふ

崎ついでに渡り舟を推すうりある三つや毛弓の橋

島ついでにやう舟とよしとの河のめいりよとけり島  
ついでに志賀崎安部崎大島猪野地崎をくけしよ  
りて迫戸とついでにやう舟と迫戸にけり入海別迫戸  
又島はけしと崎のれと書しやあり山麻のよと島か  
まはけ迫戸と入るは崎のくけしやありやあり

幸聖川

世川の源をある郡桑野より出其外にこの山谷より出  
又幸聖田川源よりも流出国中しては幸聖大河なり

け川芋倉よりして海に入る芋倉川よと云川上より海守

河よりありて 本を御担生 舟よと人としては東に中河村より

吉賀まで西に 塩生 塩生より唐渡まで大河のありきより

五十丁より東のありあり寛永六年國主忠之公の命と

うけく下見孫金馬瓜原を過り是とつたりけり是乃

乃と大河流るけ川ありあり塩生村まで二重

まはせと幸聖郡土地にきく事是とよく知るしと

生村より上より潮上りし芋倉の東十町許に幸聖川

のあり方芋倉の流るると東に方洞乃海東は松の方へ

ゆきよの東西二方より流る河上の流と二つの辻あり

是と二町より川と猪隈のありよ川あり吉賀村

幸聖川は

のちより舟を以て内海に入汝溝を以て舟一舟を以て  
崎はと西若松の舟を以て崎溝を以て大成川を以て  
舟を以て後を以て成川より舟を以て若屋川の三歌乃下佛松  
乃前に入川も舟を以て記を以て寛永九年の舟を以て舟を  
以て舟を以て志之云其家す命を以て崎を以て又若松を  
以て舟を以て西川を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を  
此川崎を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を

高倉村 高倉社

此村を吉本村の南乃山中とあり海に近き事なり里にて  
山ふくく林茂り川流もていときより春を花を以て緑路  
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を

垣もしかりにわたり住境を以て他つても掃之高倉乃  
社を以て倉村とあり此所の神は大倉主命菟夫羅媛の  
二神に天照大神と相殿と祀奉るともや若屋の村に  
座あり大倉主命菟夫羅媛の在りり昔に大社を以て神  
座も多しりしに永禄二年大友義鎮耶蘇の法に迷ひ  
諸所の神社と多し燦失せしに此所社も大と多し  
て焼くし所社記を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を  
大宮司氏貞假殿と之を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を  
志を以て氏貞假殿と之を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を  
川隆景流前の國主と成りし後所社と造營し系  
田を所寄附せし其子中納言舟を以て舟を以て舟を以て舟を





内浦

垂水越の東北麓にある村に此に昔ハ入海をせし内浦と云  
吉本村ハより西の方至聖内浦のやうな所ハ皆入海あり  
一丘今も田の丘なり蛤の壳ある大壑内にも大磯小磯磯  
系をいふ所より山はさきハ波の穿つる岩あり之吉本の  
内ノ境濱と云田ノ字あり是皆波昔入海をせし證といふの  
より、まゝ田あり吉本村の北名の松系乃内ノ潮乃入る川  
あり内浦乃濱と名あり、新濱と書り是づづより  
ら清濁の音ある所は浦といふと見えて大なる貝あり志  
大郡聖山の太鼓あり尚大あり四月のころは波静なるを地  
深き海中より出るをいふを味ハ聖山に貝といふあり

又此を名切の宿とてむし一宿傳あり此より其足と小橋  
あり、まゝと云橋と云昔一都より此來れりありし所は名を  
とや内浦と名を名とて橋東の音する者あり之は内浦  
崎の社とて毎年八月五日猿樂と勅じ笛鼓あり内浦  
つとむ田崎乃者けりありむし一をいふのこし

海藏寺 禅宗

福聚山と号し内浦村あり一井山ハ並高相尚と云永享十二  
年十月十五日ノ冥堂ハ移主ハ須賀大膳亮入道守山浄  
奥居士と云一者ありしとや内浦村のやまありしにありて閑  
寂なる境地あり天文十五年九月廿七日麻生河内守隆吉い





今ハ子野村ト云地也トモ古ク文書ク天野ト書ケル  
村中ノ須賀渡河ノ宅ノあり是大馬ノトモ今ノ社  
ノ昆沙門天ト云テリシモノイハ村ノ境内ノ雨乞山あり昔  
世阿弥ト云テテ天ノ祈アリ山人天野ト云ル一説  
神切皇后高倉社ト云テテ山ノ歸セヨハ村ノ境ノ山  
ト云ル一説一ヨハ山人小ノ野村ト云ル一説世ノ小ノ字ト  
云テ一ヨハ野村ト云

### 下山

天野松原の中ノ下山ト云ル一説ハ  
神切皇后の矢筈  
ト云セヨハ一説ト云今ノ矢筈竹あり

### 初ノ浦

村老ノ傳ヘテ 神切皇后沖積ト云ル一説ハ  
蘇ノ浦ト云今初ノ浦ト云ル一説ハ  
村中ノ是大小ノ蘇ト云ル一説ハ  
高倉山ト湯川ト云ル一説ハ  
ひー温泉ト云ル一説ハ  
ト云ル一説ハ  
名ハ湯川山ト云ル一説ハ  
牧場山ト云ル一説ハ

### 馬牧

初浦の上ノ大馬ノ牧場ト云ル一説ハ  
湯川山ト云ル一説ハ  
湯川山ノ付ノ大馬ノ牧場ト云ル一説ハ



本守村

けり何れも大出と云はれりしと 長政公の村家臣  
佛教石見として是成のしじむ板村と大出と云はれり  
川の形ちと曲まりありと名とひ大出と唐後村とあり  
ありとて長と云はれあり川端あり

館屋浦村

村氏の言傳へしむり流るる王の御もと来て住めり  
館屋と云古き文と帝とても親王とてもいへり流  
るるありし事とては流れて言傳へし成へし此の館屋  
いへりしと云はれり 齋明天皇の誓くまるとあり  
しと云又征西將軍の宮良懐親とありけりありあり

し事とてまといへりあやまるともなり 紀後の菊地氏南  
朝と流いへり國と成りし所吉野の宮より王孫を  
りしありし事ありし又或は流るる徳とては徳の流る  
徳とては徳の流るる徳の流るる徳の流るる徳の流る  
ともあり徳の流るる徳の流るる徳の流るる徳の流る  
古の事と云えりしと云ひた事とて子女とありやと云  
そ女若くありしと云ひた事とて徳とありし事と云  
る凡流の事徳樂れ徳と云へりしと云ひた事と云  
船箱崎と云深川と云徳と云徳と云徳と云徳と云徳  
神といはれ代徳と云十二事ありけりしと云へりしと  
云

ひの今水守村

二村

上二村下二村伊左産村は二村じつ二村なり今を  
つとむとく二村となす

小敷

里氏お侍と白昔麻生氏尚部と取せし時ハ小岳村忠  
白山権現と号ひあつと敬て概ひひつはつて電と  
もうけあつとさうけて神饌と謂へるなりと号て鮎  
とつふ今ハ二字と書て小敷の字と用ゆ

大岡水

小敷村の西ア下河の海の南側海をさうさう及のやと  
さうさう小敷村は境内ハ豊后赤吉と海をさうさうひ

一町は河と人として地と堀りて水と得るは別  
と別をたつて井と一も小後人是と依て大谷と  
号ひそ水といふ事なり一近村の酒家け水と汲く  
酒はかきす

今古賀

其初ハ唐後村の境内よりして沼ありと長政公入團  
の後壅りて氏家と立村なり

長崎

折尾則松本村の枝村ハ上長河と折尾の境内ハ長  
崎も則松の境内ハ昔河の川と上上は沼ハ出下上  
は沼永丸則松と依て長河と出上は沼永



高きまの毎年四月より四月まで六月より八月とせど堀  
中岡村より岩隈と吉田の山より折尾の境内として堀  
はす既に山ありとも元和九年に煉 長政二年しむ  
ひて後其切を成してやむたの中より岩隈の折れ堀  
とあり吉田と折尾の山あり堀池となりて尚残しり  
古老の物語りしに昔吉田村と折尾村の折れ山あり大  
岩多し何と切めきりて人力の疎しきり其餘は岩  
くしてらるるまき何とせし今より折尾の山と堀池とを  
昔れ切骨の半と用ひて字易くいふとありと云り

磐瀬

磐瀬と考ふる 齋明天皇六年の冬百濟のたより

新羅と伝きんとて筑紫のりきりむんとて七年春丁酉  
朔壬寅舟船更りて始て海路と云く二月丙申朔庚申  
舟舟還て干娜のたはしめて磐瀬の行宮とあり  
天皇是と改め名つきとて磐瀬と云あり二月七月天  
智天皇其はの宮と遷り居り九月其はの宮あり  
ありして織つ村として百餘れ王子豊璋と授けり  
あり上座部の船倉と西より及物事しハ磐瀬の行  
宮と則此に其事ありけ村と中岡村とのありし河  
いふ田の字あり是は其のまじりてや今中岡村に属  
たり又此にむくは浮亭ありし由是長武亦ハ卷しん  
へり船倉の及物事あり又中岡村ハあ山の中岡と

火ノ名付リ磐原ノ庄

香月村

ひりハ畑ヲ場山澤田至別小峯皆香月ノ属ハ近代  
ワツトク者別村トシ且香別澤田ハ鞍ノ部ト入リ然レモ  
古村皆香月村ノ松守ハ神社ト以テ産靈トシテ系系  
ハ村中ノ香月七郎則宗ノ屋敷トシテ古宅ノ址圃ト爲リテ  
辨モシリ又嶺野真玄ト云一者ノ宅ハ西ト増地トシテ  
何モトトハ氏宅ト云ル也是モ香月氏ノ一族ト云ル也  
香月氏ノ事ハ畑ノ部ノ部トシテ凡香月村トシテ地産トシテ  
他郷ト異ルルハ僅境トナリ

松守大明神社

香月村ト云リ日本武尊ト崇ムル所ナリ社也  
口和武尊ノ御宇ニ於テハ此所ト通ルセシメテ  
口和ノ六枚林ト沖陣ト云ル所ナリ松守ノ名ハ指シ  
トシテ亦月前川ノ水ノ後リト云ル事ト云ル也  
是カ所ナリ月後ト云テ宮ノ内ト云ル事ト云ル也  
此カ所ナリ口和武尊ノ社ト建テ祭ル所ナリ  
二年五月ニテハ神官ナリ和朝磨トシテ神託ナリテ  
神切皇后 應神天皇 仁徳天皇ト本社ノ相殿ト祭  
スルト云ルハ中殿ト日本武尊ナリ 神切皇后ナリ  
應神帝 仁徳帝ト合殿トシテ祭ル所ナリ松守宮ト号  
ハ是社人ノ名ト傳ル所ナリ九月廿日祭アリハ

大社と云ふ所の所を 神輿沖流にりし沖きましと云ふ  
終て其事わし沖流にり田と云ふ社より百ちりり  
ありあり昔を松森と書く文明の代は地は香月  
七郎を史與則と云ふ人兄中島と云ふと史與則大内義  
隆の家臣とありて姓名と松原と改む松森の産と云  
ふよりて松と改むより後香月と云ふ  
松森と松と改むより香月の家と云ふ傳へし弘治  
年中香月兵部少輔盛経と云ふ者ありて 松守社の河  
辺の大楠と伐りて社と造らんといはる何れ傳へし風吹  
楠よりと云ふて焼く故と盛経恐怖して此事と切  
事とやうなりけ楠木は松木今と云ふて一丈あり上り

焦して炭と云ふなり 社前と云ふの華表ありと云ふ八尺  
二寸あり額と云ふ 若宮殿主 松守宮 經考ハ盛経之子ニ永福の以  
の人多く香月と云ふ年号ありて若屋は松守御須賀  
氏製といひ傳へる香月村と云ふと云ふ大カと云ふは若  
とあり屋より舟と焼て黒川 香月村の下の川あり すと云ふありまう  
松守宮と云ふ七丁の町そくそく若屋の柱と云ふは  
ありしと云ふ傳へ又此社にありし小社と云ふ 仲哀  
帝武内大臣といふ殿よりて若八幡と稱すといふも  
の代よりと云ふと云ふといふと知れり

勝福寺 天台宗

香月村より白岩山と号は是村の上ありて白岩





茶屋系

馬場山の境内に 秀吉公朝鮮征伐の時通る所ありし  
之の所此時 秀吉公の休所なり 茶屋址を云ふに二十  
百四十年余の成業也なり 是よりして 所は名を茶屋系  
とす 其茶屋の址に 寛文年中村田と云ふ 天神の社と  
稱せり

蛤殻圃

楠橋村の西に 蛤殻塚とて方一丁許ありしに 其を  
滿地皆蛤殻なり 土の底に 蛤殻多し 其圃に  
りる所 土をすり 竹を高く集るといふ事と 知るに 蛤  
那本屋津村乃里人多く 是を焼て 蛤粉と云ふ年と 經

て多く 取らる 後ハ 漸く 少く 成ぬ されども 唯今 見  
る所の 奇異と 記す のこと 又 蛤の 那本屋津村も 蛤殻  
圃あり

鷹見権現

一徳村の長なる杉と云ふ 高山と云ふ 尚那の権現と云ふ 祭  
りの神ハ 慈野之所権現なり 里俗に 神の使ハ 鷹なり  
ゆへ 鷹の号ありといふ 宮生祠も 慈野権現と云ふ 下  
宮といふ 依て 鷹見権現と云ふ 上宮といふ 一徳村より 十八丁  
余上なる所に 山と云ふ 杉あり 是と一の宮と云ふ 是より 権現の  
庭ありし 是より 是に 凡七所に 延敷祠ありし 址も 今  
も 一宮と云ふ 福年中 郡中より 社と云ふ 是と云ふ 慈

野村の境ありて一里余又野村の社と社僧六坊ありて  
其地を野村と見光山神呂寺とありてやと云ふ事あり

中ノ河内

大野村の枝村あり大野より一里余深山幽谷の中あり  
て昔より境之四野山のりしありあり民家とあり二十戸許  
ありけりて昔より村とあり

田代

中ノ河内より下流上流山の内とあり川内の河上とあり谷  
あり是も大野村の枝村あり民家十余戸あり一谷の角と  
小川と隔ててあり昔より田代とあり村あり昔より田代村  
あり村あり名を同一とありて國のりて昔より田代とあり

代と云ふ小河を以て國境と云ふは川内國と文部部  
天の川乃上流谷のりて田代と云ふ村あり小川とありて東  
と大和西と河内とあり大和田代河内田代とありや又高  
木より東に東山河内と紀前神濟郡西山河内と曰谷同  
名ありて國境と云ふ事あり

川野村

此村の圃に中ノ方二十方許あり女子築田ありて宅の址  
ありて方ノ門のありて里人の金丹王と云ふ流ありて人れ居  
たりしはありといふ事ありてやあり

蘆指社

陣京村とあり今ハ誤て撰頭大明神とあり長政

この家は井上國防凍京に居る時を宅に初に陰陽  
師居住し其宅中の糞掃の墓としてい糞掃のつら  
人とも事と知りい墓の臺出るといす建小社と稱  
へるありたる國防地に住する時凍京の社人宮生の社人  
と石和して宮生社と稱してあり事ありといはしめて  
陣京も宮生社神社の本地ありし彼社人情く糞掃の  
社と建て産神といふ事とらる國防を先づこれ  
則社と建て土地神といふ是よりして神切皇后異  
國退治の時沖糞とていなる神と稱して糞掃大明神  
と号せり宮生社糞掃の墓といふもいなる所といふなり  
世に多き事なり

弘善寺 淨土宗

款冬山を章院と号し宮生村より西に行明覚河  
上人を後山人永福元年寂しむり大寺ありしといふ  
井上國防之房の墓といふといふ書に墓あり又國防妻  
婦の画像并奇納せし證あり

熊生 宮生

陣京

新田

元禄十一年熊生村の山より湧き出るといふ新田といふ  
子長と六百石と南と田といふ凡數千丁の十年宮生村

海島村の山あり潮干瀬と記して田より宮后崎より  
西へ堤の長と東西二百五十有長崎川際ありあり西  
乃瑞角と辨々天れ社と新しう之西の方堤二百二十  
有と内と新田とい田較凡七十余所あり新田と潤え  
きあり海島定生村乃堤の各と新塘として水と給ふ

筑前國續風土記卷之十二終



